



## 気持ちの良いあいさつは、明るい1日をつくる

校長 高橋 実

地域の方から、こんなうれしい言葉をいただきました。

「最近、新田小の子どもたちのあいさつが良くなりましたね。」

今年の3月から、北門の坂下の横断歩道で、地域の方々が登校時間に合わせて見守り活動をしてくださっています。交通安全はもちろんですが、あいさつの声かけもしてくださっています。始めの頃ははずかしがっていた子どもも、最近では元気にあいさつをしてくれる、とうれしそうにお話しくださいました。あいさつは、みんなの笑顔を作るのですね。昇降口のところでも、あいさつ隊が迎えます。昇降口に立っていると、たしかに地域の方がおっしゃるようにあいさつのできる児童が増えてきたように感じています。しかも、単にあいさつするというよりも、心がこもったあいさつをできる子どもが増えてきたようにも思います。あいさつは万国共通のルールです。人が出会うとき、何かを一緒に行うとき、感謝を伝えるとき、また会いましょうと別れるとき、など様々な場面であいさつをします。世界中にあいさつがあるというのは、人と人とのコミュニケーションにあいさつがとても大切だということを示しています。「横浜で一番気持ちの良いあいさつのできる学校」をめざしてみませんか。

4月23日は「子ども読書の日」でした。新田小学校は、年間の貸し出し冊数が12,000冊にもものぼります。新田小の子どもたちがとてもよく本を読んでいることがわかります。新田小の図書館は昨年までの岡島先生に代わって小股先生が司書として児童の皆さんの読書活動を支援します。本を読むことで、授業で学ぶ以上の知識を得ることもできます。本を読むことが好きになれば、生涯にわたって学び続けることができます。本を読むことによって、日本にいながら外国のことがわかるし、外国の人の考えを知ることができます。そして共通点や違いを学ぶことができます。タイムマシンに実際に乗ることはできませんが、昔の人の書いたものを読むことによって、その時代の雰囲気や考え方を知ることができます。昔の人が未来について書いたものの中に、すでに現代の社会で実現していることも少なくありません。そう昔のことではありませんが、映画の「ハリーポッター」に出てくる動画の新聞もスマホの中では実現しています。直接会うことのできない人の考え方も、本を読むことによって知ることができます。長い人生を生きていくときに、そうした人の言葉が生きていく支えになることもあります。新田小学校の子どもたちに、たくさんの本との素晴らしい出会いがあることを願っています。